

## ブラック・サンド・ビーチ

フアガス近くの八峰町海岸には、とてもかわつた黒い砂があります。八峰町のみなさんにとつてはいつも見慣れた光景だと思えます。しかし、私はこれを見てとても驚きました。黒砂のある海岸の風景が、ハワイの海岸のそれととても良く似ていたからです。ハワイの黒砂海岸「ブラック・サンド・ビーチ」にはいつもウミガメがいるのですが、私はフアガスの前でついついウミガメを探してしまったことがあります。

ハワイ島のブラック・サンド・ビーチの写真をご紹介しましょう。今年の3月はじめに、実際にハワイ島で撮影した写真(写真上)がこれです。どうです、真っ黒な砂で八峰町海岸(写真左)のものと同様でしょう。

さて、ブラック・サンド・ビーチは、どうやってできるのでしょうか？実は黒い砂の元はマグマです。

ハワイ島はいつも噴火していますので、マグマが溶岩となってさらさらと流れ出し、海岸までやってきて、水の中に流れこむことがあります。



1000度を越える高温の溶岩と水がふれあいますと……たちまち黒いガラスでできた砂ができるのです。

マグマが水で冷やされるとガラスになります。ガラスと言うのは窓を作っているそのガラスのことです。実際、山口県の萩市ではマグマが固まってできた岩石を高温でとかしてガラス器をつくっています。マグマが固まった石にはガラスが含まれていることが良くあります。

マグマがガラスになると、同時にそのガラスは粉々に割れてしまいます。ガラスのコップにお湯を入れると割れてしまうのはご存知でしょうか？最近のコップは丈夫ですので若い方は知らないかもしれませんが、昔のコップはお湯を入れるとたちまち割れてしまいました。これと同じように高温のマグマが水と触れると、ガラスになると同時に粉々に割れて、あつというまに砂になってしまいます。

このようにしてハワイ島のブラック・サンド・ビーチはできあがりました。黒いガラスの砂が敷き詰められた海岸はとてもきれいです。

八峰町の黒砂海岸も、実は、全く同じようにしてできあがりました。昔、八峰町には、鉾山がありました。有用金属を取り出した後の残りかすは高温でドロドロに融けたスラグ(カラミ)というものになります。昔はこれに水をかけて細かなガラスにして浜に流していたのですが、これが八峰町の黒砂となったのです。水で細かくなったことと黒いガラスでできているところがハワイの黒砂と同じですね。

八峰町にいと、海岸を散歩するだけで、6000kmも離れたハワイ島のエキゾチックな雰囲気を味わえるというわけです。八峰町は本当にいいところです。

秋田大学教育文化学部

教授 林 信太郎